

# 圧迫骨折は身近にあります②



渡邊由紀 診療放射線技師

前回は、「圧迫骨折」の発生部位、症状について説明しました。今回は、「圧迫骨折」の検査について説明していきます。

■圧迫骨折と骨粗じょうう症

圧迫骨折は、骨粗じょうう症と密接な関係があります。骨粗じょうう症とは、骨の強度が低下し、腰や背中の痛みなどがあります。



日立製作所ヘルスケア製

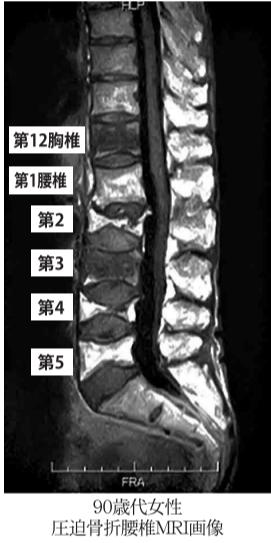
【写真1】腰椎DEXA(デキサ)装置

【写真3】



レントゲン写真では他の椎体と同じような形をしているでもMRI画像では圧迫骨折を示す信号が見られる。

【写真2】



レントゲン写真では第2、第4腰椎の形が潰れていて圧迫骨折がうかがえるが、新しい骨折か古い骨折かの判断はつかない。

MRI画像では、第2、第4腰椎の信号が正常椎体と同じ濃度なので古い骨折だと判断できる。

またレントゲン写真では分からなかったが、MRI画像では第12胸椎と第3腰椎に新しい圧迫骨折を示す信号が見られる。

■DEXA検査による骨密度の評価

DEXA検査とは、二重エネルギーX線吸収測定法(dual-energy X-ray absorptionmetry)といい、2つの異なるエネルギーのX線を人体に照射することで、圧迫骨折のことでの骨密度が最も高いところと骨密度が最も低いところと骨密度を計測します。骨密度は、骨密度量を骨面積で割った値になります。通常は第1腰椎の骨密度が最も低く、骨密度と骨面積は第1腰椎から第4腰椎をかけて増加の傾向になります。

■MRI(磁気共鳴画像・Magnetic Resonance Imaging)

腰椎DEXAの方法

検査台に仰向けに寝て【写真1】、第1腰椎から第4腰椎までを複数の椎体を合計して測定により、椎体(背骨)構成する個々の骨部分【図】ごと及び複数の椎体を合計した領域の骨塩量、骨面積を測定し、骨密度を求めます。一般的に、腰椎または大腿骨近位部などで骨密度測定を行います。

●腰椎MRIの方法

検査台に仰向けに寝て【写真2】、第1腰椎から第4腰椎までを複数の椎体を合計して測定により、椎体(背骨)構成する個々の骨部分【図】ごと及び複数の椎体を合計した領域の骨塩量、骨面積を測定し、骨密度を求めます。

●多発性骨折の存在

レントゲン写真では他の椎体と同じような形をしているでもMRI画像では圧迫骨折を示す信号が見られる。

【図】背骨(脊椎)と椎骨

